



## 1. 令和4年（1月1日～11月13日）の状況（町田消防署管内）

### ① 町田消防署管内の火災件数

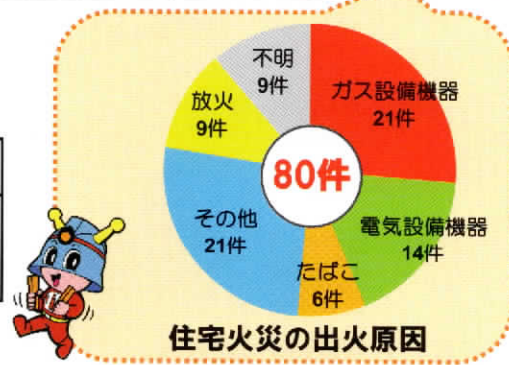
火災状況	火災件数	傷者	死者	焼損床面積	住宅火災件数
	<b>115件</b> (+13)	<b>22名</b> (+7)	<b>2名</b> (0)	<b>1,614㎡</b> (+825㎡)	<b>80件</b> (+13)

※（ ）は、昨年同時期比

### ② 町田消防署管内の救急件数

救急状況	出場件数	救護人員
	<b>18,645件</b> (+2946)	<b>15,291名</b> (+1750)

※（ ）は、昨年同時期比

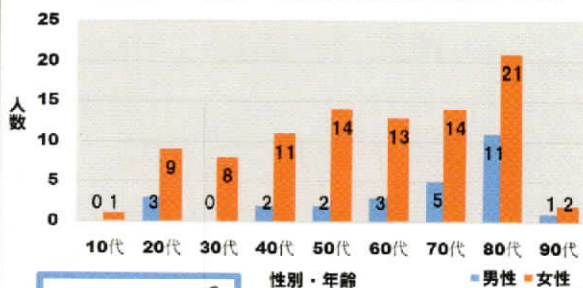


## 2. 着衣着火の注意喚起について

『着衣着火』とは・・・調理中にこんろの火が袖口に燃え移るなど、「何らかの火が身に付けている衣服に着火すること」です。

こんろによる着衣着火の死傷者は、**女性に多く、男性の3倍以上にもなります。**  
年齢では、**80代が最も多く、40代から80代の間で多く発生しています。**

着衣着火の性別・年代別発生状況（令和元年～3年中）



### 着衣着火による事故を防ぐポイント！

- 調理中は、マフラー・ストールなどは外し、すそや袖が広がっている服を着ている時は、特に炎に接しないように注意する。
- こんろのまわりにものを置かない。こんろのまわりの物を取る時に、着衣に燃え移る事例が多数発生しているので注意する。
- 鍋等の底から炎がはみ出さないよう、適切な火力に調整する。
- カセットこんろ等は取り扱い説明書をよく読んで使用する。

コンロの奥に手を伸ばす時には、特に注意しましょう！

## 3. 首都直下地震等による東京都の新たな被害想定について

令和4年5月、首都直下地震等による東京都の新たな被害想定が、10年ぶりに見直されました。その中で、**町田市の被害程度は下表のとおりとなります。**

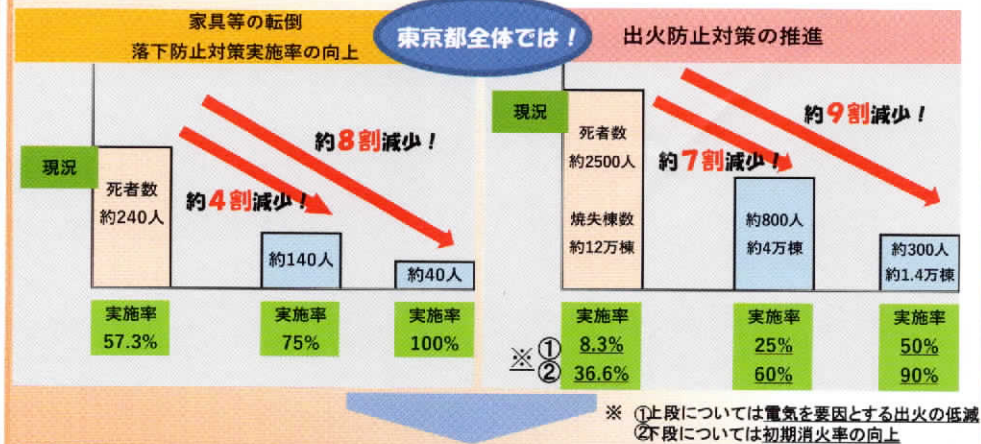
この2つの想定地震は、今後30年以内に70%の確率で発生し、被害が大きく首都中枢機能へ影響を及ぼす恐れのある地震(M7クラス)とされています。

町田市の被害程度（数字は一部概数）

区分	都心南部直下地震	多摩東部直下地震
	冬・夕方・風速8m/s	冬・夕方・風速8m/s
出火件数	12件	23件
焼失件数	800棟	2600棟
建物全壊	900棟	1700棟
死者(うち火災によるもの)	50名(17)	120名(54)
重傷者	110名	260名
自力脱出困難者	285名	570名



さらに、今回の見直しでは、「現状想定される被害量」に加えて、「これまでの取組」「今後の取組」により見込まれる被害低減効果が推計されました。



これらの各種対策を引き続き推進することで、『被害を大幅に低減することが可能』となります。

被害の低減に向けて・・・つづけましょう！家具転対策！初期消火訓練！

→→→ 実施に際しては、消防署へお気軽にご相談ください。

